

見つめる先に



緑の木々眩しく、時折ふく風に心地よさを感じる季節になりました。駿府城公園でお便りを作成しています。おそろいの半袖半ズボンに帽子をかぶり、二人の子どもたちが芝生の丘を舞台に追いかけてっこをしています。後方では、カメラを手にしながら、ゆったりと見守るお母さんの姿があり、とてもあたたかく素敵な光景にほっこりさせてもらいました。

さて、第三回目ですが「見つめる先に」と題しまして、子どもたちとの関わり方について書いてみました。お付き合いください。

おおきな木は、本年度、子どもを中心とした保育を、保護者の皆様や地域に発信し、共に子どもたちを育てていきたいという思いから、保育方針を「感じよう」「語ろう」「発信しよう」に変更しました。

近年、「子ども主体」という言葉と共に、子どもの興味や意思を大切にしたい保育が目されています。子ども達と同じ目線になって、今、何に気付き、何を感じているか、子ども達と共感することがとても大切です。その気付き(気持ち)を前向きにとらえ、結果だけではなくその過程や思いを子どもたちや職員同士で語り合っていきます。

保育者が意識しているのは、子どもたちが主体的に考えたり行動するための環境についてです。可愛らしい壁の装飾やテーブルの配置などが環境設定と思われがちですが、子どもたちが主体的に意欲的にいろいろなものに挑んでいく状況をつくることを意識しています。子ども達の「わあ!?!」「なんだろ?」という興味関心にどうやって出会ってもらおうかという状況を作ることが環境設定ということになります。いつも新しいものを用意しなくても大丈夫です。時間や出会い方、一緒に過ごすお友達や保育者によっても捉え方は変わってきますし、身近な草花や虫、うつり変わる自然が子ども達の興味関心を引き出してくれます。大切にしているのは、保育者は常に子どもたちが何に興味・関心を持っているのか、みつめて、どうやって出会ってもらおうかなと思案すること。保育者も環境ということですね。

そして、主体的にというのは、それぞれが好きなだけ好きなことをやればよいという意味ではなくて、子ども自身がやりたいことを見つけて、方法を考えて達成していくこと。子どもたちが、一人の人間として尊重され、その子らしく生きていけるよう、主体的に考え行動できる環境づくりを大切にしたいと思っています。保育者も保護者も子どもたちも、それをみている誰もが「楽しいね」「いいよね」って思える瞬間をこれからもつくっていきます。よろしくお願ひします。